



顔の見える関係づくり



副院長
なつか としき
刀塚 俊起

「顔の見える関係」とよく言われます。国家間の紛争が今も続いています。威嚇牽制しあうばかりでは、関係は好転しません。文化も考えも違う国同士は、まずお互いの理解から始まるでしょう。それには国の代表が実際に会って話をすることが重要です。

地域連携においては、各医療機関、施設が各々に運営していたのは過去のこととなり、それぞれが病院の持ち場を活かしながら連携するようになりました。

当院では、医師会の先生方と「病診連携の会」を二ヶ月に一回開催して、症例を通して「顔の見える関係」を築くように努力しています。実際に御紹介いただいた症例を通して、様々な病態を知る機会になればと思います。明日からの診療に活かせるミニレクチャーも行っています。直接お話をすることによって、どこが課題であったかが分かって来ることも多いです。

年一回の地域連携交流会では、居宅介護の事業所の皆さんと対話をする機会を、6年前

から設けています。これからますます、在宅医療へシフトしていく中で、事業所との「顔の見える関係」づくりの一翼を担っていると思います。

お互いの人となりを見れば、私たちは安心して、任せることができます。また改善点について意見を言いたい時も、前向きに捉えることができるでしょう。

カーネギーは、対人関係の第一原則に「けっして相手を非難しないこと」をあげています。よくない結果の時に概して相手を非難しがちですが、「顔の見える関係」であれば、相手の立場と状況を理解することができるようになるでしょう。

高齢社会に向けて、ますます加速する地域包括ケアシステムを有機的に動かして地域を守るには、「顔の見える関係」を築けるように努力して行きたいと思います。



地域連携交流会のグループワーク

第6回地域連携交流会を開催しました

地域医療部 医療ソーシャルワーカー 松林真奈

射水市内の介護支援専門員（ケアマネジャー）と当院の多職種の親睦を図る目的で始められた地域連携交流会も今年で第6回を迎えました。今年は射水市内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、射水市役所地域福祉課、在宅受入可能薬局の45名の方にお越しいただきました。当院からは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーが参加し、全体で98名の参加者がありました。



真野鋭志医師（消化器センター長）

前半は栄養サポートチーム（NST）、消化器センター長の真野鋭志えいじ医師より「いみず野における栄養事情と地域連携～健康長寿、笑顔のあふれるいみず野を目指して」と題して、参加事業所のアンケートから見えた、いみず野の栄養事情について講演がありました。中でも誤嚥を防ぐための完全側臥位法については初めて耳にされた方も多く、今後の支援に生かしていきたいとの声も多く聞かれました。誤嚥＝誤嚥性肺炎でなく、良質なケア、栄養状態、体力・活動で誤嚥性肺炎を防ぐことができると聞き、全身状態や生活状況を俯瞰した支援の必要性を痛感しました。その為にも地域での多職種連携が重要なのだと改めて考えさせられる講演でした。

講演の後はコーヒブレイクをはさんで、グループワークを行いました。今年度はグループごとに栄養、嚥下、口腔ケア、リハビリ、在宅療養と薬、地域包括ケアと6つのテーマを設け、興味のあるテーマのグループに参加していただく形を取りました。各グループにはそれぞれのテーマの専門職に司会を担当してもらいました。参加者からは、医師や多職種の専門的な意見が聞けて良かったとの声がありました。今後も地域包括ケア拠点病院を目指して、地域との連携を深めるとともに、多職種交流の場を提供していこうと思います。

参加した当院スタッフの感想

- ◆本日は地域連携交流会に参加させていただきましてありがとうございました。地域包括ケアの担い手の方々との貴重な意見交換の場となり、活発な討議で自分の立ち位置、真生会に求められている役割を認識することができました。地域医療は一病院で完結することは絶対になく、関係機関と綿密な協力関係を築いていくことが、良質な医療を実現する第一歩と考えます。私にできることがあれば今後も積極的に参加していきますのでよろしくお願いします。（消化器内科医師）
- ◆地域の医療や介護に携わる方々が、住み良い町づくりのため一丸となって取り組んでいることを再認識し刺激を受けました。その中でも、専門職との連携を今後も深め、それぞれの立場から情報を発信していくことや共有する機会がもっとあれば良いなと感じました。（外来看護師）
- ◆いろいろな現場の方々の悩みや疑問を知ることができる貴重な機会でした。今後、より一層医療と介護の関係者がしっかり連携しなくてはならなくなっていく中で、書面でのやりとりだけではなく、顔が見えて親睦を深められる交流会は、とっても有意義な企画であると改めて感じました。（言語聴覚士）

◆施設や訪問の現場で困っていることや疑問などを聴くことができ、今後の準備に参考になりました。歯科に求められていることが多いことも再認識し、地域連携、多職種連携の役に立てるよう勉強します。(歯科衛生士)

◆地域の最前線で活躍されている方々から、生の声をいただき、大変刺激にも参考にもなりました。NSTでも共有したいと思っています。何度か参加したことがありますが、今回のグループワークは、参加者の皆様からのご相談やご意見が絶えることなく、一番盛り上がったと思います。(管理栄養士)



2回に分けて行われたグループワーク。栄養、口腔ケア、嚥下など、院外の方には関心のあるテーマを選んで参加していただきました。

アンケートより

◇完全側臥位法は、初めて聞きました。特別養護老人ホームなど重度の方の生活の場でも嚥下の低下→食事の低下が多く、問題視されている介護の現場への指導の機会があればと感じた。(居宅介護支援事業所)

◇他職種からいろいろな意見を聞くことができ、参考になった。(訪問看護ステーション)

◇ケアマネさん方からいろいろな事例について伺うことができ、勉強になった。また、普段交流のない職種の方とも話ができたので、より一層自分たちに求められていることについて考えることができると思う。(薬局)

部署紹介：わかば病棟

医長：真野鋭志、 師長：三箇美奈子

わかば病棟は、一般病棟 7：1 入院基本料を算定している急性期病棟です。対象患者は外科、整形外科、耳鼻咽喉科などの周術期、人工呼吸器管理、脳梗塞、呼吸不全、心不全、重篤な代謝障害など、症状や徴候の発症が急激で、全身管理を必要とする時期の広領域の患者を受け入れています。

対象患者の治療は「現在」だけでなく、「過去」と退院後の QOL の維持と向上、つまり安心・安寧な生活を送れるよう「未来」への環境を整えることも入院時より重要視し、リハビリスタッフや医療ソーシャルワーカーなど多職種が早期介入をしています。

急性期は症状・兆候の発現が急激であり、状態によっては生活が一転します。ですから年齢に関係なく、患者はもちろん、ご家族も今後の生活において不安を感じている方が見受けられます。患者を取り巻く環境に応じ、入院時より退院支援・調整に取り組み、その人がその人らしい人生を送れるよう支援することを考え、日々医療・看護サービスを提供しています。

当院の強みは、退院後も十分に関わることができる医療スタッフが揃い、病期に応じた病棟で医療、看護を提供できることです。その強みを活かし、今後も地域包括ケアシステムにおける病院の役割が全うできるよう、多職種が連携していききたいと思います。そしてこの射水市が皆様方にとって住みよい地域となるよう、取り組んでまいります。



多職種が連携しています

アロマで癒やしのひととき ～タッチングケアグループ～

緩和ケア内科 副科長・緩和ケア認定看護師 長久栄子

5月18日(木)、タッチングケアグループのメンバーでセカンドホームほのかを訪問しました。タッチングケアグループは、日本タッチングケア協会の外尾幸恵先生からアロマ・タッチングケアの講義を受け、昨年から活動しています。アロマ・タッチングは、相手を想う気持ちを手で伝えるケアです。アロマオイルを使ってハンドマッサージを行います。これまで、「看護の日」のふれあい看護体験などでハンドマッサージを行い、多くの方に喜んでいただきました。病棟や在宅でもタッチングケアが広まっています。タッチンググループのメンバーも、ケアのやりがいや援助の実感を得られています。その学びや援助者としての喜びを、今度は地域の皆さんにお返しする方法はないかと考えていたところ、セカンドホームほのかを慰問するという企画が生まれました。



セカンドホームほのか
(住宅型有料老人ホーム)



マニキュアには爪を保護する作用があります。爪をきれいにすることは、自分の体を愛おしむ機会にもなり、手先の動きが綺麗になったり、気持ちが明るくなると言われています。

数日前からほのかの食堂にチラシを貼り、案内しました。当日、マッサージの際に利用者の方から「朝から待っていた」という声をかけてもらい、うれしかったです。「外出もままならない環境で、こうやって来てくれる人がいることが喜びだ」とも言われました。またスタッフからも「手のマッサージや爪にマニキュアを塗って差し上げると、皆さん格別の笑顔になられ、私達もうれしかった」という声が聴かれました。タッチングケアは、相互作用でケアする者がケアされるという現象が起こります。癒やし癒される体験となっています。

私達のケアはプロのセラピストのマッサージではありません。あくまで医療者が行う触れあい体験に少しエッセンシャルオイルの効能をあわせた傾聴という援助を行っているのです。このようなケアを喜んでくださるような施設があれば、また訪問したいと思っています。ご希望の方は、当院(0766-52-2156)へご連絡ください。

医療通訳士一級（中国語）に合格

このたび、医療通訳士一級（中国語）に合格しました。医療通訳士は一般社団法人日本医療通訳協会の主催で、医療通訳技能を客観的に裏付ける認定資格です。

当院は、平成26年11月に大連医科大学との医療技術交流をスタートさせ、平成27年には瀋陽市第四人民医院とも提携しました。その結果、富山県内だけでなく中国から治療を受けにこられる患者さんが年々増えています。外国人患者さんにとって、病気のつらさに加え言葉が通じないのは、とても不安なことです。中国語しか話せない患者さんも安心して診察を受け、また医療スタッフは診療に専念できるよう、これからも医学的知識と語学力を身につけ、通訳を通してサポートしていきたいと思います。



みやした れいな
渉外課 宮下 麗娜
(中国・遼寧省瀋陽市出身)